

## 加熱式電子タバコ（加熱式タバコ）に潜む危険性を問う

国立病院機構盛岡病院呼吸器内科 水城まさみ

最近当院の「化学物質過敏症・環境アレルギー外来」を受診される患者さんの中で、全面禁煙になっている職場で上司が、安全だからと言って加熱式タバコを部屋で吸ったところ、急に喉の刺激感が起こって咳が止まらなくなったとか、臭いも煙もないので気が付かなかったが、急に苦しくなったので周りを見たら加熱式タバコを吸っている人がいたと訴える方が出てきました。紙巻タバコより吸っているのに気付かないことが多く、すぐに避けられないためにむしろ怖いと言われる方もいらっしゃいます。実際に加熱式タバコの安全性はどうなっているのでしょうか。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでの受動喫煙防止を巡って様々な議論がなされています。この中で加熱式タバコを屋内禁煙の対象にするかどうかで国と東京都の対応が異なってくる可能性が出てきました。厚生労働省としては当面は加熱式タバコも紙巻タバコと同様に規制の対象にするという見解です。しかし独自の条例を目指してきた東京都は、昨年の9月に提示していた原案では加熱式タバコも対象にすることを明示していましたが、その後原案に対する意見公募の結果約1万7000件のうち加熱式タバコの除外を求める意見が約2000件に上ったことや健康への影響について科学的知見が現時点で明確になっていないということをも理由として規制対象から外す方向で検討に入ったことが明らかにされました。

加熱式タバコは葉タバコをバッテリーで300℃位に加熱して、蒸したり焦がすことによって発生する蒸気を吸うタイプのタバコのことです。2017年4月にアイコス（フィリップモリスジャパン）が全国販売され、次いでグロー（ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン）、ブルームテック（日本たばこ産業）が販売されるようになってきました。現在加熱式タバコがタバコ全体に占める割合が約18%となっていて、2020年には30%を超えると予想されています。加熱式タバコを販売しているメーカーは加熱式タバコは「有害物質を平均90%低減している」、「蒸気は室内環境に影響を及ぼさないので、リスクは紙巻タバコと同様に議論されるべきではない」などと安全性をアピールしています。

日本禁煙学会が2017年7月21日出した『緊急警告！！「加熱式電子タバコ」は、普通のタバコ同様に危険です。受動喫煙で危害を与えることも同様で、認めるわけにはいきません。』に、アイコスの蒸気の内容物についてアメリカ医師会雑誌にスイスの学者が公開したデータが示されています。これによると普通のタバコに比べてニコチンは84%、アクロレインが82%、ベンズアルデヒドが50%、ホルムアルデヒドは74%含まれていて、毒性物質や刺激性物質は殆ど少なくなっていないことがわかります。冒頭に述べたように化学物質過敏症の患者さんが、急に喉の刺激感、咳き込み、息苦しさを感じたのは当然のこ

とも言えます。臭いについても室内で加熱式タバコを吸われると、悪臭があると言われる方も多いです。したがって加熱式タバコの心臓や肺に対する毒性や受動喫煙症、化学物質過敏症の患者さへの影響は紙巻タバコと同等と考えられます。さらに過熱式タバコに潜む危険性として現在考えられていることとして、禁煙の成功率を低下させてしまうこと、子どもや女性の喫煙を増やすことになることです。禁煙の方法としてチャンピックスやニコレットなどの薬物療法、自分の意志できっぱり止める方法が従来より行われてきましたが、最近では先ず加熱式タバコに切り替える方が出てきました。しかし加熱式タバコでは先のデータにもあったようにニコチンは紙巻タバコと同様に含まれていますので、ニコチン依存症は改善せず、喫煙できない所では加熱式タバコを吸うことになり、結局は禁煙に失敗してしまいます。また最近インターネット販売サイトでフレーバー入りや見た目も良く吸いやすいようにできている加熱式タバコの宣伝が目につくようになってきましたが、子どもや女性の喫煙者を増やしてしまう落とし穴があると危惧されます。

以上、見てきたように加熱式タバコに潜む危険性は未来を担う子ども達にも迫ってきています。紙巻きたばこ、加熱式タバコなど全てのタバコを規制対象にした早期の受動喫煙防止法が制定され、化学物質過敏症や受動喫煙症はじめ女性や子ども達が安心して生活できる環境になり、日本を訪れる外国人にも優しいおもてなしの国になることを切に願っています。その実現に向けて私達一人一人がどんなことでも良いので今できることを初めてみませんか。